

東京都現代俳句協会会報

創立四十周年特集

発行人 今野 龍二
発行所 東京都現代俳句協会
〒113-0033 文京区本郷5-3-2-302
長谷川はるか
TEL-FAX 03-3814-1228

創立四十周年記念大会を 終えて

東京都現代俳句協会会長 山本 敏倅

令和五年五月二十七日（土）、アートホテル日暮里ラングウッドにおいて開催した東京都現代俳句協会創立四十周年俳句大会・祝賀会は、滞りなく盛会のうちに、無事終了することが出来ました。

御来賓にはご講演をお願いした現代俳句協会中村和弘会長をはじめ、秋尾敏嗣会長、後藤章専務理事並びに近隣地区協会の錚々たる先生方にご臨席を頂きました。

また東京都現代俳句協会賞には三十七篇、俳句大会には二二九六句の応募

があり、どちらも三十五周年の時より応募数が増えたことは、偏に会員の皆様のご協力によるものと感謝致します。今回から新たな賞として「全国俳誌協会賞」「俳句のまちあらかわ賞」が加わりました。新賞設立にご尽力頂きました関係各位及びコロナ禍にもかかわらず、ご応募くださった皆様には、心より御礼申し上げます。すべてのものに始まりと終わりはあります。東京都現代俳句協会は現在四十周年の途上です。この四十年間で培った経験と実績を活かし、これからも設立当初から提唱された和の精神をもって、個々の実作の研鑽を積みながらさらなる発展と充実をはかって行きたいと思っております。

都区協 第五十五回

秋季吟行会・

新入会員歓迎会のご案内

今年度新入会員歓迎会を兼ねての秋季吟行会を左記の通り開催致します。新入会員の皆様全員のご参加と多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

コロナウイルスの状況により、通信句会に変更あり

日時 令和五年九月九日（土）

午後一時より

会場 台東区民会館8階 第5会議室
（台東区花川戸一丁目六番五号）
浅草寺二天門近く

TEL 03-3843-1539

・東武線・地下鉄銀座線 浅草駅から徒歩約五分
・都営浅草線 浅草駅から徒歩約八分

吟行地 浅草界隈を自由散策後句会場へ

投句 幅目2句

投句 午後一時

会費 千円（当日）

申込締切 八月十八日（金） 必着

参加申込 〒167-0005
杉並区南荻窪1-29-122
栗原かつ代（同封のハガキにて）

TEL 03-3333-12306

懇親会 参加費五千円予定（当日）

創立40周年記念俳句大会・祝賀会

五月二十七日(土)

於 アートホテル日暮里ラングウッド

東京都現代俳句協会の創立四十周年記念俳句大会並びに同祝賀会が、総勢86名の出席者を得て、開催された。定刻午後二時に今野龍二大会事務局長の司会により開会され、開会の挨拶を小高沙羅大会副実行委員長、続いて東京都現代俳句協会山本敏倅会長の感謝の挨拶。また、多くのご来賓のご臨席を賜り、一般社団法人現代俳句協会中村和弘会長、同秋尾敏副会長、同後藤章専務理事、東京多摩現代俳句協会戸川晟副会長、神奈川県現代俳句協会尾崎竹詩会長、千葉県現代俳句協会並木邑人会長、(株)東京四季出版西井洋子代表取締役からは祝辞をいただいた。

続いて、特別功労者・功労者の発表と表彰が執り行われ、都区協の活動に長年ご尽力を賜った方々に対して、特別功労者に会長経験のある松澤雅世氏、功労者に栗原節子氏、松井国央氏を表彰、松田ひろむ氏、佐々木いつき氏には感謝状を贈呈した。松井氏、佐々木氏は欠席。松澤氏が代表して挨拶をされた。



休憩をはさみ、中村和弘会長による『俳句は、ドキュメンタリードラマ』と題した講演(講演の要約は本誌10ページから掲載)があり、いよいよ協会賞・俳句大会の受賞された方の発表・表彰となった。まずは協会賞の選考過程が佐怒賀正美大会副実行委員長よりなされた。協会賞に輝いた栗原かつ代氏には前回の受賞者である西本明未氏より花束の贈呈、栗原氏の謝辞。(受賞者の作品は8ページから掲載)次に、俳句大会入賞作品の発表となり、現代俳句協会会長賞の川崎果連氏はじめ約50名が賞を授与された。(作品は3ページから掲載)。

終了後会場を移し、祝賀会を開催。大会事務局次長長谷川はるか氏が司会を担当。まず開会の言葉を中内火星氏が、続いて現代俳句協会名誉会員の池田澄子氏のご挨拶をいただき、いよいよ青木栄子氏により乾杯のご発声。ボルテージが最高となった。

なお、末筆となりましたが、秋尾敏氏、尾崎竹詩氏、加茂一行氏より御祝儀を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

Aブロック『夏の吟行会』—芭蕉と波郷の深川へ—

実施日: 2023年 8月8日(火)

吟行: 自由吟行(都立木場公園周辺)

交通: 東京メトロ東西線木場駅 徒歩2分

句会: 深川江戸資料館レクホール

東京メトロ半蔵門線/都営大江戸線 清澄白河駅A3出口から徒歩3分

受付: 13:15開始 出句: 囀目2句(13:45締め切り)

開会: 14:00 会費1,000円 講演:『現代俳句の拡がり』—佐怒賀正美副会長

●申し込み

川崎 果連 〒135-0016 江東区東陽1-30-8-404

TEL 090-7410-9543 MAIL karen.kawasaki.2016@gmail.com

締め切り 7月30日(日)

★懇親会 17:30 花の舞 江戸東京博物館前店(実物大の土俵があるゆったり空間)

会費4,000円

創立四十周年記念俳句大会入賞作品

現代俳句協会会長賞

父はまだ暗室にいる敗戦日

江東区 川崎 果連

東京都現代俳句協会会長賞

一席 手の平に私一人の雪が降る

世田谷区 関戸 信治

二席 実家とは寝転ぶところ鳥雲に

大田区 勝山 京子

三席 今年米届く平和の重さにて

豊島区 宮 沢子

全国俳誌協会賞

縄文の女のやうに栗拾ふ

横浜市 菅沼 葉二

俳句のまちあらかわ賞

身を退けば白い勤労感謝の日

品川区 見目 千絵

秀逸賞（15句）

むかしにはなほ昔あり炭を継ぐ 亀山市 藤原 紅

肩書がないから鯨の良く釣れる 世田谷区 関戸 信治*

ピーマンを切る貧乏神の耳ふたつ 下関市 平川扶久美

綿虫やほくらの国の多数決 江東区 川崎 果連*

沖に軍艦罪のごとくに潮干狩 大田区 青木 栄子

アンケートの尊厳死に丸菊日和 大田区 青木 栄子*

また一年句歴が伸びて初山河 板橋区 小高 沙羅

月光を容れにんげんを容れ無蓋貨車

行方市 宮路 久子

三・一一帰ってこない伝書鳩 中野区 高橋 透水

下町の昭和の春がしゃべり出す 江戸川区 石綿 久子

雪催い匂い立つまで刃物研ぐ 鎌ヶ谷市 下村 洋子

どちらかが先逝くことのなき雛 さいたま市 茅野 律子

「また腕をあげたね」「柚子を利かせたの」

練馬区 中村 慈卯

梅開く大黒柱の光る家 江東区 栗原 節子

母の家なんにもなくて暖かし 世田谷区 太田 里子

佳作入賞(46句)

霧立ちて全身耳になり歩く
 柘榴落つ混沌を世にぶちまけて
 空蟬は胎児の形水匂う
 職業は仙人と書く敬老日
 思った以上に寒林だった新宿
 石に爪立て空蟬の黙示録
 短日を鏡の中にしまひけり
 火の始末いま冬蝶になるところ
 ここが好き風にならずに凍てる蝶
 風呂敷につつんで冬を片付ける
 鳥の声こぼす紅葉の無言館
 鳴いている蟬の墓標となる一樹
 秋風鈴ことは忘れた母のよう
 落しても壊れぬ言葉榎櫃の実
 蓮枯れて風の千切れる音ばかり
 紅葉かつ散る茶房にモカの麻袋
 かなかなや今日もあの子は不登校
 日だまりの移ろいやすく一葉忌
 年下の老人と行く薬喰
 横たわるゴリラの背中西日さす
 現代もいづれは古代星飛べり
 一匹は淋しさに啼く蟬しぐれ
 さえずりに傾いてゆく一輪車

足柄上郡	田畑ヒロ子	
文京区	長谷川はるか	
大田区	青木 栄子	*
吉川市	鈴木 砂紅	
渋谷区	中内 火星	
世田谷区	関戸 信治	*
入間市	久下 晴美	
文京区	松澤 雅世	
豊島区	西本 明未	
世田谷区	関戸 信治	*
足立区	今野 龍二	
下松市	河村 正浩	
板橋区	石口 榮	
板橋区	石口 榮	*
柏市	岡田 春人	
板橋区	白石みずき	
横浜市	菅沼 葉二	*
行方市	佐藤 和子	
世田谷区	関戸 信治	*
練馬区	桜井万希子	
秋田市	和田 仁	
荒川区	山本 敏倅	
鎌ヶ谷市	下村 洋子	*

蟬の穴地球を少し換気する
 牛乳が沸騰しそう憂国忌
 本籍は地球何処の誰にも初日の出
 節分や出したき鬼は身の内に
 あれば蹴り無ければ寂し夏蒲団
 大寒やどの樹に触れても反抗期
 落葉して智恵子の空が戻りけり
 ニッポンを正面にする鏡餅
 きゅうりもみ透きとおりたき余生かな
 一音の狂ひ一蝶凍らする
 何色に塗っても黒い夏の雨
 不要でも不急でもなく寒卵
 木枯をふうじこめたる砂時計
 初明り母の寝息を確かめる
 春愁を芯に残してアルデンテ
 黒南風や壁に凭れし權に傷
 風花や別の人生あつたかも
 体ごとベンチとなりて日向ぼこ
 花ひひらぎひとりひとりにある日暮
 文焼けば子猫の息のほどに燃ゆ
 母が食む一匙の粥春の雪
 他人だからいいポインセチア真赤
 縄跳んで大地とんとん春起こす

練馬区	小林 和子
板橋区	石口りんご
町田市	稲吉 豊
文京区	山添 昭子
横浜市	永井 良和
足柄上郡	尾崎 竹詩
足柄上郡	尾崎 竹詩
荒川区	山本 敏倅
川崎市	塩入 洋子
新宿区	土屋 秀夫
新宿区	土屋 秀夫
北区	菱沼多美子
文京区	加那屋こあ
中野区	まるきみさ
杉並区	山戸 則江
松戸市	富田 圭香
三郷市	加藤 圭子
栃木市	白井 正枝
川口市	高木 宇大
川口市	高木 宇大
練馬区	押見 淑子
大田区	青木 栄子
世田谷区	鷺 ケイジ

*印は重複受賞につき賞を辞退していただきました。

特別選者特選句

中村 和弘 選	歩荷速し雷鳥の山暮れのこり	新宿区	土屋 秀夫
秋尾 敏 選	綿虫やぼくらの国の多数決	江東区	川崎 果連
対馬 康子 選	鎮魂の海を見てきた海鼠の目	横浜市	麻生 明
筑紫 磐井 選	母さんの冬薔薇のようなため息	江戸川区	利光知恵子
佐怒賀 正美 選	沖に軍艦罪のごとくに潮干狩	大田区	青木 栄子
堀田 季何 選	ピーマンを切る貧乏神の耳ふたつ	下関市	平川扶久美
池田 澄子 選	風ふつと軽くなりカタクリの花	世田谷区	絲布 みこ
並木 邑人 選	烏雲にきちつと犠打を決めて逝く	板橋区	石口りんご
吉村 春風子 選	風呂敷につつんで冬を片付ける	世田谷区	関戸 信治
尾崎 竹詩 選	むかしにはなほ昔あり炭を継ぐ	亀山市	藤原 紅
山本 敏倅 選	綿虫やぼくらの国の多数決	江東区	川崎 果連
松澤 雅世 選	一音の狂ひ一蝶凍らする	新宿区	土屋 秀夫

東京都現代俳句協会

創立四十周年記念事業基金

募集続行のお知らせとお願い

令和五年五月二十七日に記念俳句大会並びに祝賀会を本誌でご報告いたしましたとおり、無事開催することができました。これも、ひとえに皆様方の事業基金寄付のお陰に他なりません。改めてご支援ご協力に感謝申し上げます。さて、皆様もよくご存じのとおり、昨今、諸物価の値上がりが続き、それがわたしたちの事業にも大きく影響し、当初の予算を大幅にオーバーしてしまいました。誠に心苦しいことではございますが、事業終了後も引き続き、皆様に事業基金をお願いを申し上げる次第です。何卒、ご理解のうえ、よろしくお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円（何口でも結構です）

記念大会実行委員長 山本 敏倅

郵便振替番号

00110・539619

加入者名 東京都現代俳句協会

*同封の振替用紙をご使用願います。

*ネット振込み利用可。

郵便振替払込受領証にて領収書に代えさせて頂きます。

基金担当 石口 榮

東京都現代俳句協会賞

選考経過報告

東京都現代俳句協会副会長 佐怒賀 正美

東京都現代俳句協会賞の選考委員会は、三月二十二日（水）文京区民センターで行われた。出席者は、選考委員として都区協側からの山本敏倅・松澤雅世・佐怒賀正美に加え、オブザーバーとして青木栄子、記録係として西本明未が同席した。他に都区協からの松田ひろむ・佐々木いつき、本部からの中村和弘・秋尾敏・対馬康子・筑紫磐井・池田澄子・堀田季何の八名からは、いずれも郵送による選考結果を受け取った。

当日の選考会では、まず、全選考委員の選句結果の一位～五位に5点～1点を充てて、その合計点を集計した。その結果、詳細は別表に譲るが、一位「座標」21点、二位「多様性」16点、同点で三位「幸福論」「象嵌」12点、同点で五位「架空の国で」「かなしまず」11点、七位「一言半句」9点となった。これらに加えて、選考委員が一位に推した作にも触れて議論することにした。

「象嵌」については、「佳品が多く、季語をうまく働かせている」「同じ種の言葉の連続が気になった」などの意見があり、〈曇天にひかりの象嵌鶴来たる〉（空席は引きの少年雁帰る）などに共感が集まった。

「幸福論」については、「全句、食に対する思い入れの自己検証」「日常の中の影を秘めたぐうたら健やか幸福論」などの感想が出た。〈幸福論というカレーのレシピ〉（あんこうを食べてきたと平仮名で言う）（へのうと生きてセロリに直面する）など、話題に事欠かなかった。

「多様性」については、選考委員三人とも「（は）じまりは「ああ上野駅」花辛夷は恥ずかしよね」で一致。だが、〈母の髪洗うそよ風つかむよう〉（朴落葉船酔いのよう雲のよう）などの柔軟な感覚に加えて、〈開戦日弱火のはず鍋焦げる〉などの批評性が評価された。

「座標」については、「破綻が少なく、着想が面白い」「一句の中に見る転位のよさがある」と好意的な評に対して、「まだ推敲ができる句が散見」との欲張り意見も出た。三人の委員の共感句は意外にも分かれたが、〈母は水色雲海を駆け抜ける〉（蜘蛛の罫の夜毎繕う感嘆詞）〈みずからの結界じつと鏡餅〉（屈折の詩人の

吐息蝶生まれへぐちづけの角度自在に蝶の昼
など佳作には事欠かなかった。

ここまでの議論を尽くして最後に再度総合
点を確認し合った結果、「座標」を協会賞に、「多

様性」「幸福論」「象嵌」の三篇を佳作にする
ことに異論なく、今回の受賞作が決定した。
なお、応募総数は三十七篇、前回より十篇
増えた。

選者名	山本敏倅	佐怒賀正美	松澤雅世	松田ひろむ	佐々木いつき	中村和弘	秋尾 敏	対馬康子	筑紫磐井	池田澄子	堀田季何	得点合計
作品名												
明治神宮						2						2
座標	4	4	5	2		1		5				21
くらし					2	4						6
モアイ		1			4		2			1		8
兜太の忌				3								3
架空の国で				4			1		5		1	11
いのちの燭								4				4
祈り										3		3
一言半句	2		1	1							5	9
多様性		3		5		3				5		16
幸福論		5							3		4	12
一月					3					4		7
老いの恋文								2	2			4
女と男と									4			4
狐									1			1
鶴					1							1
水の時間		2									3	5
象嵌	5		4					1			2	12
かなしまず						5	3	3				11
胎芽	3											3
同じ道			2		5							7
母送る										2		2
Mission							5					5
ひまわり	1		3				4					8

(受け付け順)

表中の数字は得点数。採点方法は1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点とする。

Dブロック吟行会のご案内

虚子の吟行地でもあり、檀一雄、太宰治の遊んだ地

下記の要領で実施いたします。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。

実施日 令和5年10月9日(月・スポーツの日)

集合 西武池袋線・石神井公園駅改札(バス停側)

集合時間 午前10時

句会場 石神井公園ふるさと文化館

出句 囑目二句 投句締切12時半

句会費 千円

講話 都区協副会長 佐怒賀正美

懇親会 稲田屋 会費四千円

参加申込 10月2日(月)締切

事務局

櫻木美保子 〒177-0044 練馬区上石神井3-3-23 TEL&FAX:03-5991-8708

西本 明末 〒171-0052 豊島区南長崎3-40-6 TEL&FAX:03-5996-5095

座 標

栗原 かつ代

母は水色雲海を駆け抜ける
 蜘蛛の囿の夜毎繕う感嘆詞
 逆らわず溺れず雨のあめんぼう
 夜濯ぎや息子ばかりという呪縛
 水槽の海月シナプスほどけゆく
 ひめゆりや本を開いて目を閉じる
 孟蘭盆会より人まかせ風まかせ
 蓑虫の糸の長さに平和揺る
 機影過ぎればひぐらしの大樹かな
 血を舐めて微かに野生十三夜
 落葉集めて人間になる途中
 白鳥の座標はつねに無国籍
 枯葉くすくすなんにでもなれる子等
 極楽鳥花通過待ちなら海の駅
 みずからの結界じつと鏡餅
 屈折の詩人の吐息蝶生まれ

◆ 受賞者のことば ◆



略歴
 大阪生まれ。
 所属結社「山河」
 現代俳句協会会
 員 東京都現
 代俳句協会事業
 部長

受賞作「座標」を東京都現代俳句協会四十周年記念俳句大会
 協会賞に選んで頂き、身に余る光栄です。長く指導を仰い
 でいる松井国央先生をはじめ、現俳・都区協の先生方に深
 く御礼を申し上げます。先輩方、句友の皆様と楽しく切磋
 琢磨出来たことが受賞につながったと心から感謝しており
 ます。これからも許される限り、作句して句会や大会に参
 加し皆様と豊かな時間を共有させて頂ければ幸いに存じま
 す。有り難うございました。

受賞作「座標」 栗原かつ代

くちづけの角度自在に蝶の昼
 蛇穴を出でてどこからか音信
 麦青む地図のパズルが欠けたまま
 この星のさくらの真裏なる焦土

多様性

石口 りんご

春は曙すずめ開きのかます焼く
はじまりは「ああ上野駅」花辛夷
別々に来てかたまって見る桜
鍵かけぬ家つばくらめつばくらめ
母の髪洗うそよ風つかむよう
雪晴の列出棺のクラクション
滴りの間合いは素数地蔵尊
まず妣の歳までいこう青葉木菟
陽炎を来てわたくしの分凹む
土星の環は父母の愛雪解川
船に汽笛くちびるに歌鳥渡る
秋刀魚買うどこから見ても笠智衆
三界に朗報悲報小鳥くる
柿すだれ小節ごとのアルペジオ
一日二善南天の実はさわらない
てにをはのこんがらがって青蜜柑
朴落葉船酔いのような雲のよう
開戦日弱火のはずの鍋焦げる
道祖神津軽の雪の多様性
雪蛭母の手紙のようにくる

幸福論

中内 火星

ピカソ好きパスタを茹でる冬の朝
大根は潔く半分である
聖堂の食堂が一番寒い
喫茶店で待つポインセチアと待つ
がまんでできるのも蒔萩草まで
早春のもう紅茶ならいいだろう
牛乳に血の滴りやしづの女忌
ほんとうは得体の知れぬ冷奴
幸福論というカレーのレシピ
栗羊羹の中の空想が重い
あんこうを食べてきたと平仮名で言う
これほど煮凝になりたる家族
のうのうと生きてセロリに直面する
白鳥のいる居酒屋グーグルマップ
確実でないのなら白菜にする
着ぶくれていながら空腹について
下仁田葱どんと一箱の匂い
退屈の極みに餅が待っている
寒風やコロツケにつける孤独
複雑な家庭でおでんはソース味

象嵌

土屋 秀夫

皆遠きところにおわす栗を煮る
朋からの朋の消息あけびの実
魂はレモンの重さ搾りきる
一家族百の遠景踊の輪
億光年りんごに種の部屋五つ
曇天にひかりの象嵌鶴来たる
咀嚼音三人三様暮早し
捨つるものまだ一つあり寒の晴
空風私の黒子が遅れだす
夜もすがら眠りの沖に雪が降る
雪原は原寸大の日本地図
預かりし光の伝言冬木の芽
春の雷溶接される天と地と
海へゆく始めの一步雪解川
空席は忌引きの少年雁帰る
悲しみに名前がついて揚雲雀
キス釣りの記憶の底を探る針
半眼で確かむ世界寒卵
立ち漕ぎでのぼる坂道花吹雪
一本は希望のようにねぎ坊主

東京都現代俳句協会創立四十周年記念俳句大会 講演
令和五年五月二十七日 於…アートホテル日暮里ラングウッド



「俳句は、ドキュメンタリードラマ」

一般社団法人現代俳句協会会長 「陸」主幸 中村 和弘

こんにちは、中村です。私は映像と俳句を結び付けて考えることがしばしばありまして、今日はこのような題にいたしました。資料として、まず加藤楸邨の『火の記憶』という句集。次に現在のウクライナ戦禍の俳句。そして最後が『広島』という合同句集をご用意しました。

現代俳句協会は昭和二十二年、俳句団体の中で一番早く創立されました。昭和二十二年というと、東京はまだ焦土の中。その時期に中村草田男や加藤楸邨、当時の有志が結集して作った団体です。四十周年のお祝いに、やはりそのことを感謝の気持ちをもって考えてみたいと思い、この資料を用意しました。

「ドキュメンタリー」とは何か少し整理します。まず「ドキュメント」とは、記録映画、記録文学。大岡昇平の『俘虜記』、『レイテ島戦記』や下った世代では、開高健の『ベトナム戦記』が名作でありましょう。もう少し敷衍して「ド

キュメンタリー」とは、実際の記録に基づいて構成した記事や小説や放送番組等と、かなり幅広く規定されております。正確に言いますと、俳句はドキュメンタリーの側面がある。側面でありながら、大事な側面ではないかというのが私の認識です。

加藤楸邨の句集『火の記憶』は、昭和二十年の秋から昭和二十二年の五月二十四日まで、自分たちも空襲に逃げまどいながら楸邨が作った三三九句です。日々の戦争の緻密な記録が注釈として付いている珍しい句集です。昭和二十年三月十日の東京大空襲をはじめ、楸邨は句だけでなく、記録を緻密に書いています。

「三月九日下代田より西小山に移転、午後十時半頃よりB二九数十機房総半島より侵入、波状攻撃、爆弾焼夷弾投下、十日払曉三時半に及ぶ（以下略）」

火の色の風がうがうと木の芽だつ

鍋釜を胸抱きにして春塵裡

「四月十三日、午後十一時より翌十四日午前三時にわたり、百数十機の波状空襲（以下略）」

花吹雪焰に墜つる一機見ゆ

満天に星と敵機や木の芽萌ゆ

「五月二十三日、夜大編隊侵入（中略）帰宅せし直後なり、わが家罹災」

火の奥に牡丹崩るるさまを見つ

「五月二十四日、一夜病中の弟を負ひ、長女道子、三男明雄を求めて火中彷徨」

明易き樺にしるす生死かな

かの有名な句はこうして生まれた。楸邨の初期の傑作といつていいと思います。『火の記憶』には名句がたくさん生まれており、まさにこれらは戦中のドキュメンタリードラマといつていいのではないかと思います。

次に「広島」という合同句集です。この句集は昭和三十年八月六日に刊行、広島中区の民家で近年発見され、私も以前「現代俳句」に「ヒロシマのあの日」として書かせていただきました。原爆被爆時の惨状を詠んだ、一五二句が収められております。美樹彦、兜太、一石路、



六林男、重信、赤黄男、草田男、湘子等俳人の句も多数出ておりますが、僕が特に衝撃を受けたのは、被爆した人々の作品です。
ひろしまや少女の骨を素手に拾ふ
原爆に焼けし乳房を焼けし子に
一口のトマトに笑み少年早や死骸

板倉孝子
川上政子
柴田杜代

熱き骨をバケツに拾ふ炎天下
みどり児は乳房を垂るる血を吸へり 辻村澄子
まさにドキュメンタリー。想像ではとても作れません。日本もそう遠くない昔、昭和二十年八月にこういう惨状のなかにあったことを忘れてはいけません。

最後に、ウクライナの戦禍の俳句「紅色の陽」

です。例えば料理にしる文学にしる、日本では一般に、ロシアとウクライナがごちゃごちゃになつて、翻つてウクライナでは、日本や日本語に興味をもっている人、憧れている人が大変多いそうです。このギャップを埋めるために、「キーウ俳句クラブ」の人々が詠んだ戦禍の俳句を、日本に避難してこられた、ご自身日本文化の研究者であるガリーナ・シエフツォバさんが、日本語に翻訳、発行されました。

現在戦禍のウクライナでどのような句が作られているか、すべては紹介できませんが、アナスタシア・クブコさんの作品を紹介します。

天に撃ち
花火の破片
降り掛かる

空き幼稚園

他郷にある
虹の果て

ロシア語の「武士道」
頁の間に
枯れたゴキブリ

4週間

死者の手のひら

天に開く

キーウ近郊のブチャで数千人と言われる大虐殺が行われた。路上の死者が、収容されないままに四週間たっている。その手のひらが開いているという光景です。

実は四十周年のお祝いに、こんなに戦争の俳句の話をするつもりでは当初なかったんですけども、私が言いたいのは、今われわれが生きていること、どんなささやかでも、その人にとっては日常もドキュメンタリー。それを念頭に俳句を作る。今日はわかりやすい題材として戦争をテーマにしましたけれども、我々は生きているなかで、自分のドキュメントを拾い上げていく。それが大事ではないかなと思います。

記録 山戸則江

第三十二回高田馬場「春」句会報

令和五年四月四日（火）

兼題「踏青・青き踏む」・席題「橋」

桜の美しい季節、コロナ感染者も減り晴れやかに句会を開催する事が出来ました。二十五名の方に参加していただき感謝申し上げます。

《結果発表》

1あと戻り出来ぬつり橋柳絮とぶ相沢 幹代
2踏青や戦車の轍乾かずに 磯部 薫子
3龍一の反戦の橋散る桜 宮川 夏
4青き踏む地球の呼吸感じつつ 高橋 透水
5橋渡る勇氣がなくて諸葛菜 今野 龍二
6朧夜や数多の橋を渡り来し 廣田 輝子
(以下順不同)

さくらさくら橋ぐるたび若返る石口 榮
青き踏む磨けば光る靴履いて 小高 沙羅
橋渡り戻れなくなる蟹気楼 長谷川はるか
ゆるやかに橋脚を除け花筏 江原 玲子
新しき靴の一步や青き踏む 上野 英一
たぶたと芥ひきずる橋朧 白石 正人
花の雲吾妻橋から女車夫 蓮尾 碩才
青き踏む富田木歩の膝頭 青木 栄子
二輪草群れて清明丸木橋 見目 千絵

よごみたる花の浮橋死への距離 山口 紀子
天と地のふところ深く青き踏む 川崎 果連
青き踏む術後の日かず百いまだ 鈴木 光子
踏青やはるかなる日のシルク・ロード

試歩かさね二世信者や青き踏む 北村真貴子
いやいやの晩年一步青き踏む ダイゴ哲哉
子の数の消えにまかせて青き踏む 松田ひろむ
特別の「^{カネカネ}」付け青き踏む 山本 敏倅
青き踏む黙ることあり摘むことも 大橋 愛子
青き踏む男女わからぬ児らの声 安藤 草太
(宮川 夏記)

高田馬場「秋」句会のご案内

日時 令和五年十月三日(火)

午後十二時半受付開始

会場 費 千円

場所 JR高田馬場駅前Fビル8階

兼題 「鶴嶋・石叩き」

席題は当日揭示

句会内容 二句投句・互選六句内一句特選
参加申込 宮川夏(定員二十八名)

TEL 080-3452-2577

Fax 03-3339-9841

(ご自分の氏名をお書き添えください)

スランブル通信句会

三句投句・一〇〇〇円

八月二十日締切

榎並恵那

TEL/FAX: 03-6324-2023

メール:

enasan_1948.2.19@khn.biglobe.ne.jp



編集後記

▼大会で入賞された方が授与されていた「物」
って何だったのか気になるという声がありましたので、川崎果連さんに特別に見せていただきました。(火星)

広報部・編集室

〒150-0013 渋谷区恵比寿

二二三-一五二〇二 中内火星方

TEL/FAX 〇三三四四〇一四四七九

Eメール ham@mx3.ttcn.ne.jp